

令和5年度 事業報告

私たちの暮らしにおいてはコロナ禍前の日常生活が戻り、景気も緩やかな回復傾向が見られる一方で、ウクライナや中東情勢の緊迫化に伴う世界的なエネルギー・食料品価格の高騰等不透明な経済状況も続いており、センターを取り巻く環境は依然厳しい状況にあります。

また、人口減少、少子高齢化が進み、高齢者のより一層の活躍が期待される中、地域の高齢者が地域社会に貢献し、働く意欲と能力のあるすべての高齢者が年齢に関係なく社会の担い手として活躍することが強く望まれています。

一宮市シルバー人材センターは、定年退職後等に、臨時的・短期的又は軽易な就業等を通じて、自らの生きがいの充実や就労機会の増大と福祉の増進を図り、高齢者の能力を生かした活力ある地域社会づくりに寄与すべく事業の推進に努めています。

令和5年4月には、センター本部事務所を「思いやり会館」から「ききょう会館」に移転し、新たな気持ちで業務を行っています。

会員数においては、令和5年度末において1,053名で前年度比35名の増となり、2年連続での増加となりました。

また、請負・委任事業における契約金額については約4億6千万円で、前年を上回る実績となりましたが、受託件数については9,858件となり、前年を下回る結果となりました。

なお、労働者派遣事業については、約460万円の契約がありました。

以下、令和5年度の事業の概要について述べます。

1. 普及啓発活動の推進

ウェブサイトにより、新しい情報、分かりやすい情報を伝達していくことは、益々重要性を増していくと考え、広報委員会ウェブサイト班は、常に更新に努めました。また、会報班は、会員手作りの会報「シルバーいちのみや」を毎月発行し、地域班の班長さんを通じて会員に配布し、常にタイムリーな情報提供を行いました。

市内の各連区において10月から2月の間に公民館で開催された文化展等にシルバー会員の募集を呼び掛けるチラシの配付を依頼し、地域住民等にシルバー人材センターをPRするとともに、リバーサイドフェスティバルへの出店、公共施設等へのパンフレットの配布、ポスターの掲示等により普及啓発に努めました。

さらに、生涯学習出前講座「いちのみや出前一聴」として、市内3か所の公民館に出向き、シルバー人材センターの役割と仕組み等を紹介しました。

地域班・職群班では、普及啓発と地域貢献を目的に「清掃ボランティア活動」を実施しました。

2. 会員の増強

市広報、報道機関等によるPRに努めるとともに、会員のロコミが効果的と考え、従来から実施している「会員一人紹介運動」を積極的に展開するため、全会員にチラシを配布しました。市内各町内会に対してチラシの回覧を依頼し、より多くの市民の方にシルバー会員を募集していることを周知するとともに、10月、11月と2月の3回、新聞にも会員募集の折り込み広告を行いました。

また、新たな会員を迎え入れる入会説明会においても週1回開催し、速やかに就業できる環境を整えています。

3. 就業機会の開拓と提供

会員のロコミ、市広報、報道機関等を活用して一般家庭等に仕事を提供していただけるように受注拡大を図ってきました。また、就業機会の公平を期するために毎月就業相談日を開設し、未就業会員の減少に努めた結果、全会員のなかで令和5年度において就業を行った会員の割合を算出する就業率は、97.5%でありました。

また、労働者派遣事業について、企業等から申し出があった場合、実際に就業予定場所を訪問し、就業環境等がシルバー会員に適するかを慎重に検討し、条件等が合致した複数の事業所において、就業する機会を得ました。

4. 安全就業の徹底

事故ゼロを目指し、安全がすべてに優先することを会員に周知徹底し、本年度も「安心・安全、親切・丁寧」を基本目標に掲げ、安全就業を実践してきましたが、会員の事故状況においては22件発生し、前年を1件上回る結果となりました。このことは、会報紙に定期的に掲載し周知することで、注意喚起を行いました。

安全就業における取り組みとしては、安全就業委員会において、夏と秋に、安全就業推進員と共に就業現場の巡回パトロールを実施しました。

会員の安全意識を高めるために安全標語を募集し、優秀作品を選定するとともに、「ヒヤリ・ハット」の体験談を募集し、それぞれ会報紙に掲載することで、事故の防止に努めました。

また、暑い環境であっても就業しなければならないことを考慮し、就業中や途上での熱中症の予防を周知するとともに、万一に備え、従来の保険では対象にならなかった「熱中症見舞金制度」に引き続き加入しました。

さらに、会員の安全就業向上を目的として、自転車の安全な利用方法を学んでもらう「自転車安全利用出張講座」を開催し、交通ルールや自転車の安全運転・安全行動の再認識を行いました。

5. 組織の充実・育成

シルバー事業の健全な発展と円滑な推進を図るため、6回の理事会を開催しまし

た。

「自主・自立、共働・共助」の理念に基づき、会員相互の交流と連帯意識を図るための地域班、職種を同じくする会員の専門性や事業の効率向上を図るための職群班の育成に努めました。

6. 福祉・家事援助サービス事業の拡大

福祉・家事援助サービスの需要に応えるため、会員の資質向上を目的に研修会を実施しました。なお、受託件数は263件、契約金額は約384万円となりました。

7. 本町ふれあい広場の管理と独自事業の推進

シルバー人材センターの活動と情報発信の拠点として本町ふれあい広場を運営し、独自事業を推進してきましたが、店舗の老朽化が進み危険な状態となったため、9月29日をもって営業を休止しました。現在、仮店舗を借り上げ、野菜の販売を行っていますが、新たな本町ふれあい広場として令和6年6月の再開を目指し、準備しています。

8. 会員厚生事業の実施

地域班、職群班に属する会員相互の親睦と情報交換及び連帯意識の高揚を図るため、地域貢献のボランティアや研修会を実施して業務の円滑な推進に効果を上げることができました。

また、急速に進むデジタル化に個々の会員が対応できるよう、スマートフォン初心者が基礎から学ぶことができる国のデジタル活用支援推進事業を活用した「スマホ教室」を9月から2月にかけて20回開催しました。

9. 関係機関・団体との連携強化と情報収集

全国シルバー人材センター事業協会、東海シルバー人材センター連絡協議会、愛知県シルバー人材センター連合会、尾張西ブロックシルバー人材センター会議、尾張西ブロック東西地区シルバー人材センター事務研究会の構成員として活動に参加、連携を図って最新の情報を的確に把握し、業務の運営に反映しました。

また、一宮市及び関係機関とも連携を密にし、事業運営の発展、拡充に努めました。

10. 襖・障子張り作業所の事業推進

たくみ作業所及び尾西高齢者作業センターにおいて、襖、障子、網戸の張替等の業務を推進しました。なお、受託件数は237件、契約金額は約457万円となりました。

11. 高齢者作業センター等の充実

貴船高齢者作業センター、尾西高齢者作業センター及び高齢者生きがいセンター作業室において、カミソリの袋詰め、切干大根の袋詰め、自動車部品の面取り等の簡単な作業を受注して、配分金収入の増加に努めました。

12. 職業紹介事業の推進

60歳以上の定年退職者等に、臨時的かつ短期的又は軽易な業務に係る就業で雇用を希望する方に対し、職業紹介に努めました。

13. 指定管理受託施設の管理運営

貴船高齢者作業センター、尾西高齢者作業センター、高齢者生きがいセンター及び社会福祉センターききょう会館の管理運営を指定管理者として受託し、利用者の利便を図りました。